



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1929, 11(5): 388-396

ISSUE DATE:

1929-05-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183593>

RIGHT:

△秋田縣和田油田地形及地質圖(油田第二十三區) 二萬五千

分一 村山賢二 調査 商工省 昭和三年五月 七二錢(丸籖)

△秋田縣神宮寺油田地形及地質圖(油田第二十四區) 三萬

分一 村山賢二 調査 商工省 昭和三年五月 七二錢(丸籖)

○都市問題 第八卷第三號 三月

六大都市既往人口の推算(猪間驥一)

○*Economic Geology*. Vol. XXIV No. 1. 1929.

The Origin of the Mauchurian Magnetic Deposits.

(T. Karo)

○*Zeitschrift für Vulkanologie*. Bd. XI. Hf. 4. Nov.

1928.

Bericht über die jüngste Tätigkeit der Kamtschatka-

Vulkane. (H. Reck)

◎大日本地誌大系 第一卷 御府内備考 一 雄山閣 三月

◎Comparative Vocabulary of the Western Eskimo

Dialects. By D. James. (Report of the Canadian

Arctic Expedition 1913-18. Vol. XV. Eskimo

Language and Technology. Part A.) Ottawa. Dec.

1928.

○上部白堊紀アンモナイトのサイフンクルに就きて(清水三

郎) 齋藤報恩會事業年報第四 昭和四年三月

○地震 第一卷第三號 三月

激震帶の長期移動に就いて(宮部直巳)

潮汐の負荷に因る地殻の傾斜運動(高橋龍太郎)

文化七年の男鹿寒風山地震に就いて(今村明恒)

地震に對して武装せられたる町村と武装なき町村(今村明恒)

○*Proceedings of the Imperial Academy*. Tokyo. Vol.

V. No. 1. Jan. 1929.

Some interesting geological features observed on

the Median line of Southwest Japan. (M. Morishita)

Fossil Chelonian (?) eggs from South Manchuria.

(H. Yabe and K. Ozaki)

○科學畫報 第一二卷第三號 三月

花綵のやうな日本列島はどうして出来たか(高橋純一)

有史以前の關東地方(關東山地)とその變遷(脇水鐵五郎)

有史以前の東北地方とその變遷(渡邊萬次郎)

有史以前の北海道とその變遷(北村詮次郎)

有史以前の瀬戸内海と琵琶湖(網島定治)

富士火山帶の成因(本間不二男)

九州島の成因と其變遷(淺井治平)

琉球列島の成因とその變遷(武見芳二)

太平洋に出沒する幽靈島フアルメンの不思議(渡邊千里)

雜報

○揚子江の三角洲

上海大學のG・P・クレツセー博士

が支那雜誌で上海四近の地質を述べたる所によると、揚子江の運搬する浮游土砂の量は著しく多量である。揚子江委員會

及黃埔江河川局の多年の觀測によると其の量は大約一箇年に四億噸であるがこれには河底に沿うて轉流する物料及河水に溶解せる物質は含まれて居ない。若しミヌシツピー河の場合に於ける浮游土砂と上記の物質との割合を此にも宛嵌めると前記の量になほ二億噸を加ふべきである。然し現時の負荷量で過去に於ける川の營力の大きさを計ることは出来ぬ。これは開墾及從て森林の荒廢される以前には陸面の侵蝕はより遲緩であつたからである。堆積の行はるゝと共に三角洲は多分沈降したと思へる。爲めに非戸を割つた結果によると堆積層の厚さは平均千呎以上に達する。堆積地域は約二萬五千方哩に及ぶ故三角洲の全容量は少くとも五千立方哩になる。堆積の速力が常に一樣であつたとすればこの堆積には六萬年かゝつたことになるが實際にはもつと永くかゝつた事で、其の最初の堆積は第三紀中にあつたかも知れない。現時三角洲の海へ進出すること六十年に約一哩であると計算されたが、これには河底に沿うて轉流する物質及沈降の影響を考へに入れて居ないのである。平坦な三角洲中には此處彼處に孤立した丘陵があつて、中生代の火成岩によつて貫かれた古生層の岩類から主に構成されてある。舟山列島の丘陵も亦同じ岩類から成立つて居る。三角洲堆積物の下底には丘陵及溪谷を有する過去の地形があることは明かである。クレツセー博士は上海地方の此の過去の地史を明にせんとして居る。(Geog. Jour. に據る)

○仁科三潮及日光五色沼の泥土中の鑛物

田中阿歌磨先生の採集せられた表題の湖水の泥土に就き、檢鏡する機會を得た。泥土の中には鑛物の量少く一%にも満たず且つ大粒のものを見出すに困難である故、泥土を重液により多少淘汰して比較的大粒のものを含める泥土を檢鏡した。泥土は非晶質有色で硅藻類の多數の遺骸を交へて居る。鑛物は各湖により多少の相違はあるが、大小不同、形も種々の碎片狀玻璃多く、長石、輝石、綠泥石、黑雲母、石英等である。長石は大粒のものでは、分解せる部分多く、僅かに縁邊部で識別せられるものもあれば、また細粒なれども極めて新鮮なる劈開片も見られる。輝石は分解せる部分あるも長石の如くは著しくなく、小粒なれども柱狀結晶をなすものには端面の見られるものも少くない。黑雲母は其數少く、綠泥石は他鑛物の分解生成物として不規則なる塊狀をなしてある。石英は五色沼のものに殊に多く見出される。他の湖底には稀である以下各湖に就き多量のものより順次に列舉して見れば

一、木崎湖二八米底(灰色細粒泥土)

鏡下に淡褐色稀に黒色の非晶質物を含む。

玻璃 ○、八耗以下

長石 ○、三耗以下、斜長石、アルカリ長石(光軸角小屈折率低し)

輝石 ○、五耗以下

綠泥石 ○、八耗以下

黑雲母 ○、七耗以下

二、中綢湖一二米底(帶褐灰色細粒泥土)

鏡下に淡綠灰色の非晶質物稀に黑色のものを交ふ。

玻 璃 一、〇耗以下

長 石 一、四耗以下、斜長石、アルカリ長石、

(極めて新鮮なるものを交へアルカリ長石を多く含むこと第一なり)

輝 石 ○、四耗以下

綠泥石 二、〇耗以下

石 英 一、三耗以下

黑雲母 ○、四耗以下

三、青木湖五六米底(灰色細粒泥土)

鏡下に淡黃褐色の非晶質物に黑色のものを交ふ。

玻 璃 一、二耗以下

長 石 ○、七耗以下、斜長石、アルカリ長石。

綠泥石 一、〇耗以下

輝 石 ○、五耗以下

石 英 一、一耗以下

四、五色沼三米底(帶褐黃色細粒の泥土に○、五耗以下の

鞍山岩粒を交ふ)

(鏡下に淡褐黄色の非晶質物に黑色のものを混す)

玻 璃 ○、七耗以下

輝 石 ○、五耗以下

石 英 一、〇耗以下

長 石 二、〇耗以下、斜長石(極めて稀にアルカリ

綠泥石 長石を混す)

鞍山岩粒 ○、六耗以下

五、五色沼五米底(帶褐黃色細粒泥土)

(鏡下に淡褐色の非晶質物に黑色のものを交ふ)

玻 璃 ○、七耗以下

長 石 ○、五耗以下、斜長石

英 石 ○、二耗以下

綠泥石 ○、五耗以下

黑雲母 ○、五耗以下

鞍山岩粒 四、〇耗以下

○世界の棉花

一九二六年度米棉に未曾有の收入あり、

爲めに市價の下落著しかりしが、その量一千九百十三萬五千

俵にして(一俵五百封度)戰前一千七百萬俵のレコードを破

りたる也、然るに一九二七年には一千三百七十三萬三千俵に

して一九二〇年來なき貧弱なる收穫となれり、これ實に相場

の下落したる結果なりとす。猶一九二七—八年度世界市場出

現高は

米 棉 一四、三七三、〇〇〇俵

印 度 四、四七五、〇〇〇俵

埃 及 一、二〇〇、〇〇〇俵

合 計 二三、七九八、〇〇〇俵

これは前年度の二七、八二二、〇〇〇俵よりも著しき減少な

(君塚)

り、近年歐洲諸國は夫々自己の植民地に棉花の栽培を爲すに至り、年々收穫増加あり、英領印度以外の地にては三四七、九五六俵を産し特にスーダンの十二萬七千俵、ウガンダの十三萬五千俵を著明なりとすべく、佛領にも八、八五七噸、白領コンゴにも一五、〇〇〇噸を産せり、かくて一九二七年度の世界棉消費高は二千五百萬俵にして、收穫に超過せること百二十萬俵に上れり。一九二八年七月三十一日現在の繰越高は一〇、一二一、一八一俵なりといふ。

今世界の紡績錘數をのぶれば左の如し。

	一九一八年	一九二八年
英國	五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、三一六、〇〇〇
他歐洲	四三、二〇〇、〇〇〇	四七、七六八、〇〇〇
北米	一九、五〇〇、〇〇〇	一七、〇三二、〇〇〇
南米	一四、三六九、〇〇〇	一八、五一〇、〇〇〇
印度	六、六五三、〇〇〇	八、七〇三、〇〇〇
日本、支那	三、〇七五、四三五	六、二七二、〇〇〇
埃及	一、五四〇、〇〇〇	三、五〇四、〇〇〇
カナダ	一、三六七、九一一	一、一五四、〇〇〇
メキシコ	一、五六二、一四九	五、〇二四、〇〇〇
合計	一四八、二六八、九〇五	一六五、一〇三、〇〇〇

過去十年間に約千七百萬の増加なるが北米、南米及極東の一大進歩を認む、新錘は舊錘よりも能率大にして、假令は日本は一日二十時間の運轉可能なるも印度にては僅に一日十時

間とす。

○中等學校地理科設備品最低標準案(二)

乙 通論之部 (續き)

陸界地理之部

(一) 標本

イ、地質時代ヲ代表スル岩石類

(岩石類別表)

始原層	三波川層	古生層	中生層	第三紀層	動力變質ヲ受ケタルモノ	接觸變質ヲ受ケタルモノ	褶曲ヲ受ケタルモノ	建設作用ヲ示スモノ	A 化學的沈澱岩
三	一〇	三〇	三〇	三〇	口、內的營力ニヨリ變化ヲ現ハス岩石	ハ、外的營力ニ受ケタル岩石	ハ、外的營力ニ受ケタル岩石	三	三
一・一〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	一・〇〇〇	朝鮮ノ片麻岩ヲトル	主トシテ内地產ヲトル	主トシテ内地產ヲトル	一・〇〇〇	一・〇〇〇
三・六〇〇	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	一〇・〇〇〇	(化石ヲ含ム)	(化石ヲ含ム)	(化石ヲ含ム)	二・〇〇〇	二・〇〇〇

B 器械の堆積ニ

ヨル岩石

浸蝕削剝作用ヲ示スモノ

A 永河ノ堆石

B 其ノ他

ニ、噴出物及ビ沈澱物標本

火山噴出物(標本)

温泉沈澱物(標本)

(三) 模 型

造山力説明(模型)

地層構造模型

(六個一組)

地層説明用(模型)

斷層ノ成因ヲ示ス模型

小形地質模型

(八個一組)

浸蝕輪廻説明模型

(二個一組)

新舊地勢對照模型

(三) 掛 圖 類

地殻ノ上昇下降圖

地震現象微動計

火山ノ種類及斷面圖

(其ノ他地形圖地質圖ハ地誌ノ部ニ計セ七

陸上、海水中

淡水中

島津拔

(アルプス産)

岩石風化標本

其ノ他

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

島 津

ルモノヲ使用ス)

臨界地理合計貳百八拾貳圓六拾錢也

水界地理之部

掛 圖 類

潮 汐 圖

海 嘯 圖

磯 波 津 波 圖

(其ノ他地誌ノ部ニ計セルモノヲ使用ス)

水界合計參圓也

氣界地理之部

(一) 機械器具類

雨 量 計

アネロイド山岳晴雨計

最低寒暖計

ダニエル氏濕度計

風 力 計

風力計用電氣盤

(二) 掛 圖 類

水 河 水 山

氣 溫 雨 量

氣 流 ノ 箱 環

颶 風 龍 卷

(其ノ他地誌ノ部ニ記セルモノヲ使用ス)

氣界百六拾七圓也

通論累計壹千百八拾七圓參拾錢也

丙

以上ノ項目以外ノ教授資料、教師研究

生徒實習ニ關スル備品

(一) 讀圖資料

曲線圖式說明模 型教師用	一	一三・〇〇〇	一三・〇〇〇	學海指針社
同 生徒用	二	一・一〇〇	二・四〇〇	同
等高線說明模型教師用	一	三・〇〇〇	三・〇〇〇	同
同 生徒用	二	七〇〇	一・四〇〇	同
二十萬分ノ一 帝國圖々式	一	二・五〇	二・五〇	陸地測量部
五萬分ノ一地形圖々式	一	一・三〇	一・三〇	同
地形圖々式說明 (二枚一組)	一	四〇〇	四〇〇	同
測圖記號	一	一・三〇	一・三〇	同
(二) 測量及製圖				
クリノメーター (手札形)	一	五・五〇	五・五〇	サツク入
ワイセル氏測高器	一	一五・〇〇〇	一五・〇〇〇	土屋
步數計	一	八・四〇〇	八・四〇〇	土屋
步測圖用具(一組)	一	八・〇〇〇	八・〇〇〇	土屋
プリズマチツク コンパス	一	四・五〇	四・五〇	玉屋 服部

プラニメーター
カービメーター
一 六・〇〇〇 六・〇〇〇 井 上

方 位 尺
一 二・〇〇〇 二・〇〇〇 西村萬壽土屋

地圖模寫台
三 五・〇〇〇 一五・〇〇〇

比例コンパス
二 四・〇〇〇 八・〇〇〇

大定規及コンパス
(一組)
一 六・〇〇〇 六・〇〇〇

大分度器
一 二・〇〇〇 二・〇〇〇 土屋

ハンタ グラフ
一 四・〇〇〇 四・〇〇〇 玉屋其ノ他

ハンドレベル
一 二五・〇〇〇 二五・〇〇〇

製圖器械(一組)
一 七・〇〇〇 七・〇〇〇

ハンマ (大)
一 四・〇〇〇 四・〇〇〇

同 (小)
一〇 二・五〇〇 二五・〇〇〇

タガネ
一 五〇〇 五〇〇

ハンマサツク
一 二・〇〇〇 二・〇〇〇

岩石採集靴
一 九・〇〇〇 九・〇〇〇 舶來ニテ二十倍ノモノ

岩石用眼鏡
一 一五・〇〇〇 一五・〇〇〇

條痕板
一 二・五〇〇 二・五〇〇

圖 鑑
一 五・〇〇〇 五・〇〇〇

丁

標具室 (研究實習兼用) 設備

雜 報

五九 七五

廣サ、幅四間 長サ五間

一間戸棚

曳出付陳列台

地理地質模型塗板地圖入

地 圖 掛

地 圖 立

教師研究用一テ

アル曳出付

教師用 小箱

生徒研究用テール

生徒用腰掛

地 圖 表 装

繪具、繪具皿、繪筆、筆洗其他

標具室合計壹千參百貳拾九圓也

廣サ縦五間半、横五間 (横ヲ五間ニスルニハ普通ノ校舍ニ於チハ一方ノ端ニトリ廊下ヲツナス)

戊 教室設備

生徒用机ハ二人用トシ椅子ハ一人用トス

教室ノ光線チ妨ゲザル側ニ取付ケル

陳 列 台

一 103.000 100.000

平均 10.000 10.000

地 圖 掛

(後全部前ノ兩隅)

地圖掛兼揭示用衝立

塗 板

塗板地圖

地理模型掛

教 壇

教 卓

教 具 置 台

幻 燈 器 械

幻燈器機台

暗室裝置一切

白晝射影用暗箱

教室合計壹千參百貳拾圓也

總計七千八百八拾圓七拾五錢

中等學校地理科設備最低標準案附錄

(地質時代ヲ代表スル岩石類蒐集案内)

(一) 始 原 層

灰色壓碎花崗岩 平安北道宜川郡宜川(驛)附近

角閃片麻岩 京畿道富川郡桂南面梧柳洞(驛)附近

黑雲母花崗片麻岩 忠清北道水同郡黃澗ノ南東(驛)

同 上 京城府南山

(二) 三 波 川 層

絹雲母片岩 群馬縣多野郡三波川村

同	上	兵庫縣三原郡湊及長田
アンモナイト		高知縣高岡郡佐川町
礫	岩	和歌山縣高野附近ノ和泉砂岩中ノモノ
同	上	千葉縣銚子大吠岬附近
	(五)	第三紀層
凝灰	岩	神奈川縣足柄下郡湯本村附近
同	上	東京府小笠原島母島
同	上	千葉縣安房郡上小原
同	上	兵庫縣城崎郡港村氣精附近
砂	岩	富山縣射水郡澁谷
礫	岩	磐城炭田ノ礫岩(堅クテ保存ニ都合ヨシ)
頁岩	岩	本縣産
貨幣石	炭岩	東京府小笠原島母島
其ノ他	本縣産各種	

質疑應答

【問】 スミルナ産の櫛鱗(ヴァロネ) (大阪 I 生)

【答】 ヴァロネは亞細亞トルコを中心にして生長する櫛の一種から採取せらるゝ圓栗の蒂である。此櫛は主にアナトリアのメアンドル河流域からマルモラ海の沿岸、北はタルダネルスから南はスミルナの南海岸地方の森林にできる。實は胡桃様のドングリと松子様の蒂から成り、熟すると蒂が破れて中の

胡桃は自然に落ちる。商品として有用なのはこの蒂である、この蒂の先端につく所の片鱗はよく脱落するが、この部分は實は單寧の含有量が豊富である。

タンニン鞣の原料として、ヴァロネが珍重さるゝ理由は、其含有量が他の櫛皮果實の何よりも多いこと、良質であつて上等の皮、特に小兒靴、上等手袋の羊皮のナメシに適するからである。甘く所理すると皮革が軟柔ピロッドのやうになるのである。

スミルナ附近は特にこの木に適し單寧分が平均三十七%に達する。他の地方のは三十%位である。スミルナが輸出中心地となる理由がこゝに存する。

收穫は例年八月に初り十月頃に終る、外部の餘り熟しきらぬ中にたゞき落し、水に一旦没した上で、天日乾燥を行ひ、袋につめて保存し必要に應じて輸出する、歐洲大戰前に毎年五萬五千噸乃至六萬噸位を出した。その後人民が燃料に木をきつたので減じたが、希臘軍侵入當時は一萬八千噸位になつた、大戰中輸出の途が杜絶したので、北米では化學合成品を以て代用したが、近年漸く復活して年額四、五萬噸になつた、凶作の年ほど輸出がふえる。近頃大阪方面に百五十噸ばかり輸入された。

ヴァロネから抽出した黄色の粉末をヴァレックスといふ。單寧が六十四%になる、スミルナにはその製造所が三ヶ所もあつて、最大の工場では年々一萬二、三千噸の良質ヴァロネから五六千噸のヴァレックスをつくるといふ。(藤田)